

5組 国語科学習指導案

5組 2名
指導者 尾 関 美 和

1 単元名 おはなしをよもう

2 単元設定の理由

(1) 学習者の実態

本学級の学習者は、1年生男子1名（以下A児と記す）、6年生男子1名（以下B児と記す）の計2名で構成されている。学年差は大きいですが、2人とも物語が好きであったり、カルタ取りやゲームなども好きであったりと、楽しんで授業に参加できるメンバーである。しかし、協力学級では消極的になり、名前を呼ばれても返事ができなかったり、質問されてもうつぶいて無言になったりして、活動することが難しい場面が多い。このように大勢の中では、気後れしてしまう2人であるが、5組での授業となると大きな声で発表したり、自らしたい活動を伝えてきたりして、活発に学習活動を行うことができています。以下に具体的な実態を述べる。

名前	学 習 者 の 実 態	本 単 元 に お け る 実 態
1年 A児 男子	太田のステージⅢ－2（H17、5月実施） 着替えや排泄、食事など自分のことはひとりで言うことができ、日常生活での簡単な指示も、ことばで理解することができる。交流学級での学習では、消極的になることが多く、初めてのことや『できない・わからない』と思うことは、試みようとしめない場合がある。しかし、支援学級の活動では、大きな声で挨拶ができたり、ものおじせずにチャレンジしたりすることができている。 平仮名は学習中である。黒板に自分で板書することが好きで、休み時間や掃除の後など、時間を見つけては黒板に文字を書いている。家庭では、平仮名練習の宿題は毎日自分から進んでしている。 模倣は、おおむね同じような動作をとろうとするが、手指の発達が未分化なため、細かな動きは難しいことが多い。	入学時には、自分の名前を書くことができていた。他の平仮名についても学習を積み重ね、一文字ずつなら読める文字も増えている。現在、「あ行」から「た行」はほぼ読むことができる。1学期の終わりには、好きな動物の名前が2、3種類読めるようになってきた。しかし、友達の名前や時間割をすべて読むことはまだ難しい。また2語文で意思を伝えることはできるが、発音は口蓋垂の変形のため不明瞭である。教科書の音読の宿題には、母親と一緒に取り組み、少しずつ声を出して読むようになってきている。 お話を読んでもらうことは好きで、集中して聞くことができる。しかし、内容の理解はまだまだ不十分である。ストーリーや登場人物の気持ちに関する質問には、1学期の後半頃から、表情カードを選択し答えることができるようになってきた。 カルタ取りは大好きであり、動物や果物の名前を少しずつ覚えてきている。B児より多くカードを取ろうと頑張る姿も見られるようになった。カルタを自分から取りに行ったり、終わるとカルタをケースに入れたり、準備や片付けも積極的に言うことができています。

名前	学 習 者 の 実 態	本 単 元 に お け る 実 態
6 年 B 児 男子	太田のステージⅢ－２（H17，５月実施） 排泄は自分でできるが，着替えは時間がかかり，服の裏表，前後も間違うため援助が必要である。食事は偏食が多く，給食では牛乳を飲むだけの日がある。発作が度々起こるため，１日３回の投薬をしている。 その日の体調によって，学習が続かず，度重なる発作のため睡眠を取ることもある。しかし，今年度は体力がついてきたこともあり，興味関心のある内容は，集中して学習できるようになってきた。特にお話に対して関心は強く，国語の時間には楽しく学習に参加できている。また，下級生と一緒に学習で，B児が活躍する場面も多くなった。優しくA児に教える事もあり，自信を持って活動できている。 交流学級の学習は，体育と帰りの会に参加しているが，これも体調によって参加できないときがある。 人に対して強い興味があり，知らない人でも自分から近づいて行き，元気に挨拶をする習慣がある。支援学級の活動では，号令を大きな声でかけたり，自分のしたいことをはっきりと発表したりする等，元気に参加することができている。 身体意識や手指の発達が不十分で，リズムより遅れて動作をすることもあるが，模倣はよく覚えており，同じような動作を取ろうとする。	平仮名，片仮名はほぼ読むことができる。手指の動きや力のコントロールが十分でないため，文字を書くと大きくなりすぎたり，判別が難しい形になったりすることがあるが，筆圧は強い。しかし，プリント学習や個別学習になると注意集中が続かず，１，２分で席を立ち，他の教材を取りに行こうとすることもある。 本を見ることは大好きで，挿し絵や単語でストーリーを追うことができる。挿し絵の人物の表情を見て「危ない！」など，その人物になりきって台詞を言うこともある。読み聞かせも好きである。学習時にはいつも読んでほしい本を数冊選んで教室に入室してくる。お話を聞いている間は離席もなく，落ち着いて学習に取り組むことができている。登場人物の気持ちも表情カードを正しく選ぶことができるが，気持ちを表現することばはまだ少なく，３～４種類である。 カルタ取りでは，単語を読むことができるので，読み手として活躍することが多いが，カードを取って友達と競い合うことも好きである。A児に勝とうとして頑張っている。この活動のときは，大きな発作もあり見られず，集中して参加することができている。また，一学期は昨年から学習している漢字を加え，「山」「川」「手」などの一文字の漢字のカルタ取りをしていた。二学期は名前や地名など，二文字の漢字を増やし学習している。繰り返し学習を行うことで，読むことができる漢字が増えてきている。

（２）単元設定について

障害のある子どもたちにとって国語の力とは，日常生活でその場に応じて必要なことを理解し表現する力や態度だと考える。日々の生活において人の話を聞いたり，いろいろなものを読んで情報を得たり，時には相手に理解してもらえるよう話したり書いたりする力などが，生活する上でとても大切である。そこで，学習者が少しでも楽しく豊かに生活できるように力をつけてもらいたいと思い，単元の内容を考えることとした。

また本学級は，１年生と６年生という学年の開きが大きい集団であるが，いくつかの検査の結果，２人は能力的に似ていることが明らかになった。そこで，発達課題がはっきりしている太田のステージを参考に，単元を考えることにした。そしてさらに，そのステージⅢ－２の発達課題から以下の項目に着目した。

- ことばの意味内容をふくらせる。
 - ・語彙数を増やす。
 - ・疑問詞の理解
 - ・文字の読み書き
 - ・文字による意味理解
- イメージの世界を豊かにする。
 - ・絵本、本等の簡単なストーリーを楽しむ。
 - ・身振りの理解と表現
- コミュニケーションを活発にする。
 - ・集団でのゲームや約束事を理解する。

これらの内容から、それぞれの発達課題に応じた学習内容を設け、共通の目標で取り組むことにした。同じ教材を使いながら、6年生のB児には、表現の方法を増やしたり、リーダー的な役割を設けたり、地域で見かける漢字をカルタにするなど、生活年齢を考慮して学習内容を準備した。A児には、楽しみながら学習できるように、親しみやすい動物のお話を用いたり、好きなキャラクターの絵をプリントの挿し絵にしたり、よく覚えている平仮名を使ったカルタなどを準備したりした。

そして、障害の特性から注意集中が継続しにくいため、題材や授業の流れを工夫した。集中力が切れないように、短時間でいくつかの学習活動を移行していくことや、二人が好きな動物が登場する話を取り上げることにした。B児は卒業学年であり、来年は中学生になる。年齢が上がるにつれ行動範囲も広がり、関わる人々も増え、今より人間関係が複雑になってくる。そのような中で、良い人間関係を築き、穏やかに生活できるようになるためにも、相手の気持ちを理解することが非常に大切になる。現時点では2人とも、そのことについて不十分なところがある。関心を引きやすいお話や、表情カードを使い、相手の気持ちを考えやすいようにすることによって、気持ちの表現を豊かにさせたいと考えた。表情カードは2人の認知レベルに合わせ、PCS（コミュニケーションシンボル）より、線画を利用した。

また、A児は平仮名も少しずつ覚え、学習することが楽しい時期である。しかし、まだことばとして平仮名を読むことは難しい。そのため、プリントに挿し絵を加えたり、好きなカルタ取りをしたりして、文字の理解を深めたいと思った。B児は平仮名、片仮名も覚え、今は漢字を学習しているが、プリント学習だけではなかなか定着しない。そのため、友達と競争しながらカルタ取りをする中で、漢字に親しみながら読むことができるようになってほしいと考えた。

将来、二人が社会生活を営む際にも、コミュニケーションの力はとても大切なものである。相手の気持ちを理解することは非常に重要なことであり、このことが暮らしやすさへとつながると考える。この学習で、相手の気持ちの理解や自分の気持ちの表現が、少しでも豊かにできるようになってもらいたい。

次に教材選択についてであるが、一学期は主にB児の選ぶ本を中心に学習してきた。よく選んでいたのが、『ねずみくんのシリーズ』である。この本は、お話も短く、動物が登場する親しみやすいものであった。二人とも、このシリーズの本をよく聞くことができていた。ねずみくんの気持ちについて、4種類の表情のカードから、適するものを選ぶこともできるようになった。

そこで、今回は一学期親しんだ動物たちが登場するお話を選択した。この「半分ずつ少しずつ」というお話は、大きな鮭を捕った熊がきつねに半分譲り、きつねがその半分のうさぎに譲

り、うさぎがその半分以上をねずみに譲るというストーリーである。場面ごとにそれぞれの動物の気持ちについて書かれている。B児にとって、興味の強い動物の話を学習することは、集中して授業に取り組むことにつながる。また、二人とも自分の好きなものを友だちに譲ったり、分けたりすることが苦手であり、時々もめることもある。このお話を学習することで、友だちとの関係も良くなってほしいと思い、選択した。このお話を通して、登場人物の気持ちの理解について、特に焦点をあてて指導し、相手の気持ちを考えることができるようになってもらいたいと考える。

3 単元の目標

(1) 学習者の活動目標

登場人物の気持ちを考え、表現しよう。

(2) 指導目標

A児	B児
○活動の順番を理解し準備を自ら行う。	○自分で筆記用具を準備している。
○パネルシアターをよく見ている。	○パネルシアターを見ながら、登場する動物の気持ちをつぶやきながら聞く。
○プリントに平仮名を何回か記入する。	○プリントの枠からはみ出さず、文字を記入する。
○読み札を声を出して読む。	○読み札をA児と交代しながら読む。
○場面に適した表情カードを選び、気持ちについて話す。	○場面に応じた気持ちを表現することばをいくつか話す。

4 本単元における評価について

能力	評価規準	子どもがことばの力を身につけた姿の一例	評価の資料
関心・意欲・態度	授業の流れが分かり、それぞれの活動の準備をしている。	・「十分に満足できる」状況 A児：自ら次々と活動の準備を行う。 B児：苦手なプリント学習の準備を自らしている。 ・「おおむね満足できる」状況にするための指導 A児：準備できるように使用する物を伝える。 B児：落ち着いて聞けるように着席させてから準備物を伝える。	・カルタ取りの様子
話す・聞く能力	物語などを聞いて、おおよその内容が分かっている。	・「十分に満足できる」状況 A児：パネルシアターに注目して見ている。 B児：パネルシアターを見て、登場人物の気持ちを短いことばで話している。 ・「おおむね満足できる」状況にするための指導 A児：動きを付けながら話をする。 B児：場面ごとに区切って、パネルシアターをする。	・表情 ・発言
書く能力	進んで文字を書こうとしている。	・「十分に満足できる」状況 A児：進んで文字を何回も書いている。 B児：枠から大きくはみ出すことなく、漢字を書いている。 ・「おおむね満足できる」状況にするための指導 A児：なぞり書きできるよう、蛍光ペンで文字を書き、励ましのことばをかける。 B児：意識が途切れないように、何回書くのかを声かけしながら励ます。	・表情
読む能力	平仮名や漢字で書かれた語句を読んでいる。	・「十分に満足できる」状況 A児：読み札にかかれてある平仮名を、ものの名前として続けて読んでいる。 B児：漢字の札を声を出して読んでいる。 ・「おおむね満足できる」状況にするための指導 A児：覚えている文字を指さしながら、一緒に読む。 B児：漢字の札を見ながら、一緒に読む。	・カルタ取りの様子 ・発言
知識・理解・技能	気持ちを表すことばをいくつか話している。	・「十分に満足できる」状況 A児：表情カードの絵に適したことばを話している。 B児：表情カードに応じた気持ちをいくつかのことばで話す。 ・「おおむね満足できる」状況にするための指導 A児：いくつかの気持ちカードと一緒に読む。 B児：気持ちを表すことばをカードに記入してもらい、気持ちのカードを増やしていく。	・カルタ取りの様子

5 学習計画（全10時間）

学習活動と支援	学習者の意識の流れ	身に付けさせたい力
1 お話を聞く。 （2時間） ★これまでの国語の時間の読み聞かせによってお話への興味・関心を高めるようにする。 2 どんな動物が出てくるかを話す。 （2時間） ★場面ごとに何の動物が出てくるのか質問をすることによって、気づくようにする。 3 登場人物の気持ちを話そう。 （3時間 本時1／3） ★登場する動物と場面を照らし合わせることによって、表情カードを選びやすいようにする。 4 好きな場面について話そう。 （1時間） ★パネルシアターの動物を見せ、その場面のお話することによって、自分が好きな場面を選ぶことができるようにする。 5 パネルシアターをしよう。（2時間） ★場面ごとにお話を読み聞かせてから、パネルシアターの動物を動かすことばがけをする。	<pre> graph TD A["本とおもしろい。 どんな話かな。"] -.-> B["どんな人（動物）が出てくるかな。"] B --> C["おもしろそうなお話だ。 もっと聞きたいな。"] C --> D["くまがさけをつかまえたんだ。"] C --> E["ねずみにもあげたんだ。"] D --> F["いろいろな動物がでてくるな。"] E --> F F --> G["にこにこしてさけを分けてるな。"] F --> H["たくさん食べておいしそう。"] G --> I["どんな気持ちかな。表情カードを選んで、話してみよう。"] H --> I I --> J["このカードかな。"] I --> K["この場面が好きだな。"] I --> L["くまやきつね、ねずみは何て話しているのかな。"] J --> M["自分の好きな場面を探そう。"] K --> M L --> M M --> N["たくさんねずみがいて、おいしそうに食べているな。"] M --> O["さいごにマフラーをもらうところが好きだな。"] N --> P["パネルシアターで登場する動物を動かそう。"] O --> P P --> Q["優しいくまだよ。"] P --> R["くまが心配だな。"] Q --> S["自分でお話して楽しかったよ。"] R --> S </pre>	〔関〕 着席し、興味を持って聞いている。 （表情・つぶやき） 〔話・聞〕 お話のだいたいの意味がわかる。 （発言） 〔知〕 表情のカードを選んだり、気持ちを表すことばを話している。 （カード・つぶやき） 〔話・聞〕 好きなところやおもしろいところを見付ける。 （指さし・発言） 〔話・聞〕 登場する動物の気持ちを話している。 （つぶやき・発言）

6 本時の学習

(1) 本時の目標

①学習者の活動目標

- お話を聞いて、登場人物の気持ちを発表しよう。
- カルタ取りをしよう。

②指導目標

- 表情の絵カードを選び登場人物の気持ちについて話ができるように、ことばがけをする。
- 登場人物の気持ちを話し合うことによって、学習者がパネルシアターを動かすことができるようにする。
- カルタの文字を一緒に読んだり、付近の札を指さしたりしてヒントを出すことで、楽しく活動できるようにする。

(2) 展開

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	身につけさせたい力		評価の 資 料
		1 年 A 児	6 年 B 児	
1 始めのあいさつをする。	○口を大きく開けて号令をかけるように、ことばがけをする。	○自信をもって号令をかけようと手を挙げる。	○着席をして、前を向いて号令をかける。	・ 表情 ・ 発言
2 11月の歌を歌う。	○踊りやすいよう曲に合わせてかけ声をかけたり、動きのことばを言ったりする。	○動作のことばを聞いてポーズをとる。	○動作のことばを復唱して模倣する。	・ 模倣の動き
3 平仮名や漢字を書く。	○興味を持って学習できるように、カラーの挿し絵の入ったプリントを用意する。 ○漢字の学習には、身近な地名や友達、先生の名前を用いる。 ○書けない学習者には、なぞり書きのプリントを渡す。	○絵を見て正しい平仮名を書く。	○睡眠に入ることなく、文字の練習をする。	・ 表情
4 登場人物の気持ちを発表する	○2人の好きな動物が出てくる話を選び、集中して聞くことができるように抑揚をつけたり、間を取ったりして話す。	○登場する動物の名前を言ったり、短いことばで動物の気持ちを話す。	○登場する動物の気持ちをいくつかのことばで話す。	・ 発言 ・ 表情 ・ つぶやき
(1) パネルシアターを見る。	○興味を持って聞くことができるように、パネ	○集中してパネルシアターを見る。	○「うわあ。」「おいしそう。」「か	

	ルシアターの動物を2, 3カ所動くように作っておき, 動かしながら話す。		わいそう。」など, つぶやきながら話を聞く。	
(2) 登場人物の気持ちに応じて, 表情カードを選ぶ。	○表情のカードを4, 5枚用意する。	○人物の気持ちに合った表情のカードを選ぶ。	○人物の気持ちに合った表情のカードを選び, 発表をする。	
(3) 選んだカードを見て, 気持ちについて話す。	○学習者が話しやすいように, 具体例を上げて話をする。	○B児や教師が話すことばを聞いて, 同じようなことばを言う。	○気持ちに関することばを言ったり, よく似た意味を持つことばを言ったりする。	
(4) パネルシアターを使ってお話をする。	○気持ちを込めて, 話すようことばがけをする。	○動かしたい動物を選ぶ。	○場面に応じて動物を動かす。 ○その場の様子を表すことばも話す。	
5 カルタ取りをする。	○勝敗がわかりやすいように, ホワイトボードに対戦表を記入する。	○自信を持って, 札を読んだり, 取ったりする。	○集中して絵札を取る。	・表情 ・つぶやき ・カルタ取りの様子
(1) 札を取る。 平仮名, 漢字	○勝敗が理解しやすいように, 枚数をボードに記入する。	○一枚ずつ正しく札の数を数える。	○一枚ずつ正しく札の数を数える。	
(2) 枚数を数える。	○勝った方にキャラクターのマークをつけ, 一緒に拍手をする。	○「どっちが多い」の質問に答える。	○「どっちが多い」の質問に答え, 相手の勝ちを認める。	
6 終わりのあいさつをする。	○学習内容を振り返るため, 何を学習したかを質問する。	○大きな声で号令をかける。	○楽しかったことを発表する。	

(3) 本時の評価

「十分満足できる」状況	A児：進んで自分から表情の絵カードを選び, 気持ちのことばを話している。 B児：気持ちのことばをいくつか話している。
「おおむね満足できる」状況にするための指導	A児：気持ちを表すことばについて, ヒントになることばをかけた り, 一緒に言ったりする。 B児：主体的に活動できるようなことばがけをし, 最後まで集中して活動できるようにする。